

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	天草 : 句・歌・詩
Author(s)	菅野, 寅夫
Citation	龍南, 238 : 87 - 88
Issue date	1937-10-30
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/7422">http://hdl.handle.net/2298/7422</a>
Right	

# 天 草

菅 野 寅 夫

小夜更けて眞下の海ゆなる汽笛<sup>ふえ</sup>のこだまはながしひびきわたらふ

雨の音またつよまれる小夜更けを襖のひろき部屋に寝てをり

あかときを下の海より聞える碇の音は巻き上ぐるらし

荷を積みて漕ぎよる舟の籠の目ゆ頭を出して鶏のをり

この道を歩みてひさし富岡の町は見えつつはるかなりけり

暴風雨來んとすらしも碇下し巡航船はとゞまりにけり

旅にでて二日を経ればこの夜半の寢床にわれは錢を數ふる

よべよりの荒れまだ止まぬあけ方に烏は空を啼きゆきにけり

ふたたびもわれは來ざらむ高島のはろになりゆくをかへりみにけり

げんげ田にげんげの花の咲くみれば幼き頃もはろけくなりぬ

いただきにあさ雲動く島原の岬は右に低くなだれぬ

中空にすむ月かげは海の上の低き夜雲を白くてらしぬ